

研究日誌

...

美しい。これが、我が”母”か。

...

まさか山に、ミ=ゴ達の研究施設があるとは思っても居なかった。

彼らはどうやら、”母”のことを「ルイエル」と呼称しているらしい。

それ以外の資料は解読できなかった。...まあ残していくくらいだから、不要なものなのだろう。

”母”の周りは孢子が酷いため、ガスマスクをつけないとろくに呼吸ができない。

火をつけたらとんでもないことになりそうだな。

まあそもそも火は使いたくない。我々は火に弱い。この体になってから、それを見たく無くなった。

...

母...ルイエルは奇妙な存在だ。旧支配者ほどの能力は持ち合わせていないが...レッサーオールドワンとしての能力は持っているだろう。

研究を進めるにつれて、様々なことがわかってきた。

ルイエルの飛ばした孢子は、他者に寄生し、その人物をゾンビに変えてしまう、ということがわかった。

...ゾンビというのは、些か研究者として使っていい言葉では無いだろうが、どうせこの日誌は私以外は読まない。

兎も角、K山にて眠る我が”母”は孢子を飛ばし、人間に寄生させ、自分の思いのまま操るのだ。

そして、何らかの方法で、私にその美しい声を聞かせてくださるのだ！

しかし、どうやって語りかけてくるのか...。K山に近づいた時のみ、母の声が聞こえる。

奇妙だ...。

...

この前寄生された個体と共にこの山に来た際、その個体と...なんと説明したら良いか...テレパスとでも言えればいいのだろうか。”思考”で会話することができたのだ。何故？急に。

...

全ての謎が溶けた。

菌糸だ。

”母”が菌類、特にきのこを改造したものと考えれば説明がつく。

きのこは菌糸を利用し、言語を用いて会話をするという論文を読んだ事がある。

”母”は菌糸を張り巡らせて、それを経由して声を届けているのだ。

そしてその菌系を使って、寄生された個体同士でも会話ができる。
素晴らしい。

...

私の仮説は正しかった。

これを”菌糸ネットワーク”と呼称しよう。

私達寄生個体は、体から LAN ケーブルのような物が生えている。それを菌糸ネットワークに接続することで、菌糸ネットワークを利用することができるのだ。

そして、その中央に存在する、母...ルイエル肉体は、いわば中央サーバのようなものだ。

寄生された個体から多くの情報が、母の元に集うのだ。知識が母の元に集合するのだ。

...しかし、他の寄生された個体は菌糸ネットワークを使いこなしているが、私はここまで使いこなすのに時間がかかった。意思の強さによって、菌糸ネットワークを使えるかどうかには差が出るのだろうか。

...

母の意思を明確に定義してみる。

- ・生存本能
- ・繁殖本能

...生物的な本能しか持たないようだ。母と会話は成り立たないし、知能は持ち合わせていないのだろう。

しかし、関係無い。”母”は、”母”だ。

...

寄生個体は火に弱い。これは全てに共通している。

また、薬物にも弱い。人間にとっての毒物は、我々にとっての猛毒になり得る。

あとは乾燥にも弱い。

これらの特性は母にも通じるだろう。

...

恐らく私は、偶然生まれたイレギュラーだ。

本来であれば、脳は孢子に侵され、侵食され、キノコと化す。しかし私は、途中で魔術による治療を挟んだ。

それによって、深層心理の部分のみが母に侵食され、他の脳は無事で済んだのではないだろうか。

その仮説を元に、実験を行ってみる。

...

成功だ！母に従順でありながらも、意思を残したこの個体を、“従順個体”と呼称しよう。
久しぶりに、考えの合う相手と会話ができた。

...

彼が死んだ。私ほどの従順個体が生まれるのは、かなり難しいことのようにだ。
死亡した原因は何か？調べてみる必要がある。

...

このキノコ...ある特性を見つけた。
どうやら特殊な成分があるらしい。
少しコツはいるが、意識することで、肉体を強化できるらしい。
...分量を間違えると、理性が飛ぶが。
使用すると、強化されている部位のキノコが怪しく発光する。
“ブースト”と呼称しよう。
多分、脳に作用してリミッターを解除してるのだろうが、対応する部位のキノコが発光する原理がわからない。

...

まさかこの女が従順個体になるとは...しかし、ずいぶんと深層心理に抗おうとしているそうだが...。
従えば楽になれるのに、馬鹿なものだ。

...

また母から何かが生まれていた。恐らくこれは、無性生殖の類いだろう。成分も、魔力分布も母と似通っている。
寄生個体が母の元に誘導される理由は、恐らく無性生殖のためのエネルギー確保か。
しかし、生まれてくる個体は毎回形が違う。魔力分布も多少違う。
毎回突然変異を起こしているのだろうか？
また、形も時折人間のパーツが混ざっている。
“母”の中にある、人間の情報が混ざることによって、こういった現象が起きているのだろうか？

...

”門”を利用し、K山の、Kエリアに近い場所…。K山の中腹に、”中継地点”を作った。
まだ実験段階だが、既にこの研究所にも菌糸が届いており、菌糸の範囲拡大は可能ということがわかった。

あの場所は魔力が多いため、門の維持に私一人の魔力で済む。

そしてあそこは、私が好きな場所だ。見晴らしも良い。

…何か、大切なことを忘れている気がする。やはり、最近物忘れが激しい。

寄生の侵食は止まっているはずだが、念のため検査をしておこう。

...

この前生まれた個体は人語を喋った。直ぐに死亡したが。

この方法による生殖の成功率は限りなく低そうだ。

...

生まれた個体が逃げ出したようだ。

檻に入れておいたはずだが。

...

”門”を広くしたことで、菌糸が太くなった。これで、より遠い場所に菌糸を伸ばせるようになっただけでなく、菌糸ネットワークに孢子を乗せる事ができる。

今までは意図的に”門”にて孢子をカットしていた。菌糸ネットワーク1本ごとに、乗せられる情報や魔力、そして孢子の量は決まっている。細い菌糸ネットワークのままで孢子を乗せたりしたら、情報が滞ってしまったり、魔力供給が上手く行かずに門が閉じてしまう。

だが”門”が広くなり、通る菌糸が太くなったことで、より多くのやり取りができるようになったのだ。

今後は遠くの菌糸をもっと太くし、門で山越えを行い、隣の街に菌糸ネットワークを届かせる。

そして孢子の散布量を増やし、寄生個体を増やす。

そうすれば、私以外の従順個体が再び現れる。

とはいえ、まだ孢子は飛ばさない。まだ焦る時ではない。

...

これは考察だが、寄生個体が最終的に人型キノコになるのは、寄生個体を増やすためではなく

...

生殖のためであったとしたら？

寄生個体は”母”の不完全なコピーだとしたら？

どうにかしてそのコピーを完全に持っていけたら？

...

母の寝床を調査した。なんと、異常な程、空間内の魔力量が多いことがわかった。
また、適度な湿度もあり、暗い。
恐らくこの条件が、寄生個体が完全なコピーになる条件ではないだろうか。

...

S市南の郊外、●山の麓の洞窟内が、異常に魔力量が多いことを発見。
湿度も高く、暗い.....ここは、”母”の繁殖に最適だ。
だがここは菌糸ネットワークが届かない。
”母”の子をすくすくと育てるためには、菌糸ネットワークが必要だろう...。
ここまで届かせるためには、行うしかあるまい。
大規模な門の拡張を。

...

金が掛かった。多量の魔力を確保するために。
時間も掛かった。門の拡張と、維持のために。

全ては”母”のため。
”母”の子が生まれれば、それを元に、新たな場所を侵食できる。
”母”とその子、両方を利用すれば、侵食の速度は今までの比では無いだろう。

門の拡張さえ終われば、門に自己修復機能が備わるから、旧支配者の攻撃を受けなければ壊れない。
問題は、拡張中だ...。

...

今思えば、寄生された個体が母の元に向かうのも、正しい行動に思えるな。
母は捕食のために自分の元に向かわせていたんじゃない。

自分がいる場所が、ルイエルという個体が成熟するのに最適な環境だから、誘導したに過ぎないのだろう。
しかし、辿り付く個体が成熟していないから、捕食するのだ。

...